



男女共同参画小委員会活動報告

2008年2月7日(木)

委員長 小松 登志子 (埼玉大学)

幹事長 岡村 美好 (山梨大学)

0



平成19年度の活動

- 土木学会全国大会研究討論会(9月12日)
- 男女共同参画にかかわる土木学会法人会員アンケート調査
- 男女共同参画学協会連絡会
(オブザーバー加盟)
 - 女子高校生夏の学校(8月16・17日)
 - 第5回シンポジウム(10月5日)
 - 第2回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査

1

土木学会全国大会研究討論会

考えよう！土木技術者のワークライフバランス

- 話題提供
 - 仕事と家庭の調和(ワーク・ライフ・バランス)
 - 矢島洋子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
 - 育児親父の思うところ
 - 畠中真一 川田工業株式会社
 - 土木技術者からみた現状と課題に関して
 - 堀越研一 大成建設(株)
- パネルディスカッション
- 入場者数 25名

2

女子高校生 夏の学校

- 講演「あなたも『まちづくり』の主演に！」
 - 松本香澄(武蔵村山市)
- 実験教室「建造物の形と強さ」
- ポスター展示「私たちの暮らしを支える土木工学」
 - 生涯教育小委員会協力
- 報告:学会誌12月号p.71



学協会連絡会第5回シンポジウム

- 特別講演「科学技術分野におけるダイバーシティの考え方」
 - 内永ゆか子(日本アイ・ビー・エム)
- 分科会
- 活動報告(ポスターセッション)
 - ビジュアル賞を受賞
- 参加者数 200名以上



4

男女共同参画に関わる 法人会員アンケート調査(第1回) ～ 経過報告 ～

2008年2月7日

男女共同参画小委員会
調査WG (桑野玲子^{*1}、米山賢^{*2}、山田菊子(河合)^{*3})

*1 東京大学、*2 (株)建設技術研究所、*3 小樽商科大学

5

1. 調査の目的

- 目的
 - 土木業界における男女共同参画の状況と課題を把握し、土木学会としての今後の対応を検討する際の基礎情報とすること
- 日本建築学会アンケートとの比較による、共通、異なる課題の把握

6

2. 調査の概要

- 方法
 - 郵送、ウェブ、メーリングリスト等による告知
 - ウェブサイトにおけるアンケート
 - 土木学会のウェブサーバ、システムを活用
- 期間
 - 2007年10月1日～11月15日(約1か月半)
- 対象
 - 土木学会法人会員 713社・団体
- 回収数・率
 - 138社・団体、19.4%

7

3. 調査の概要

○ 構成

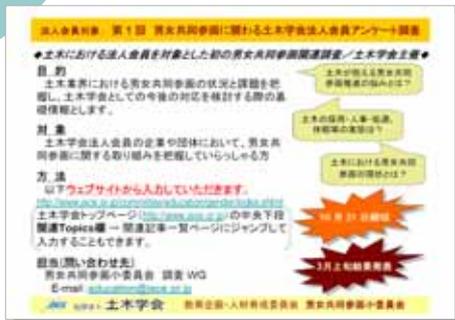
- ・ 回答団体の基礎情報
- ・ 採用・人事・処遇
- ・ 休暇制度等
- ・ 男女共同参画に対する取り組み
- ・ 男女共同参画の推進に関する問題点等

日本建築学会の調査結果と比較

3. 調査の概要

<告知・アンケート画面>

<チラシ>



法人会員対象 第1回 男女共同参画に関わる土木学会法人会員アンケート調査

◆土木における法人会員を対象とした初の男女共同参画関連調査／土木学会主催◆

目的
土木業界における男女共同参画の状況と課題を把握し、土木学会としての今後の対応を検討する際の基礎情報とします。

対象
土木学会法人会員の企業や団体において、男女共同参画に関する取り組みを把握していらっしゃる方

方法
以下ウェブサイトから入力していただきます。
<http://www.jsce.or.jp/kyoseisaku/kyoseisaku/kyoseisaku.html>
土木学会トップページ <http://www.jsce.or.jp/> の中央下部「関連トピックス」→関連記事一覧ページにジャンプして入力することができます。

参加/問い合わせ先
男女共同参画小委員会 調査WG
E-mail: kyoseisaku@jsce.or.jp
JAN 10221 土木学会 総務企画・人材育成委員会 男女共同参画小委員会



男女共同参画に関わる土木学会法人会員アンケート調査(告知)

本調査は、土木業界における男女共同参画の状況と課題を把握し、土木学会としての今後の対応を検討する際の基礎情報とすることを目的とし、土木学会男女共同参画推進委員会が土木学会法人会員を対象として実施するものです。

調査の趣旨としては、2006年4月1日(現在)以来の世界的な女性活躍推進の動きに、土木学会の法人会員がどのような取り組みを行っているかを把握し、今後の対応を検討する目的です。ここで調査を希望しているのは、調査結果に基づいて、適切な企業・団体の状況を把握するものではありません。また、報告情報については調査結果発表以上の詳細については提供せず、また、適切な対応をいたします。

調査の構成

本調査は、以下の3つのパートから構成されています。

1. 告知: 調査の基礎情報について
2. 募集: 人事・処遇について
3. 調査: 調査結果に関する男女共同参画に関する取り組みについて

※調査は、以下の3つのパートから構成されています。

1. 告知: 調査の基礎情報について
2. 募集: 人事・処遇について
3. 調査: 調査結果に関する男女共同参画に関する取り組みについて

※調査は、以下の3つのパートから構成されています。

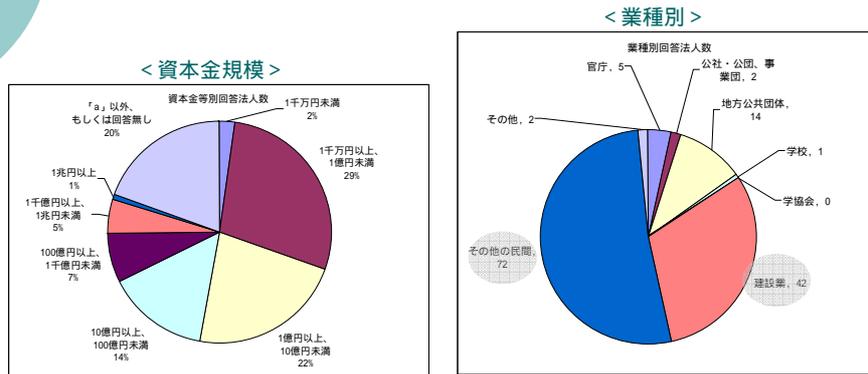
1. 告知: 調査の基礎情報について
2. 募集: 人事・処遇について
3. 調査: 調査結果に関する男女共同参画に関する取り組みについて

※調査は、以下の3つのパートから構成されています。

1. 告知: 調査の基礎情報について
2. 募集: 人事・処遇について
3. 調査: 調査結果に関する男女共同参画に関する取り組みについて

4. 調査結果(速報)

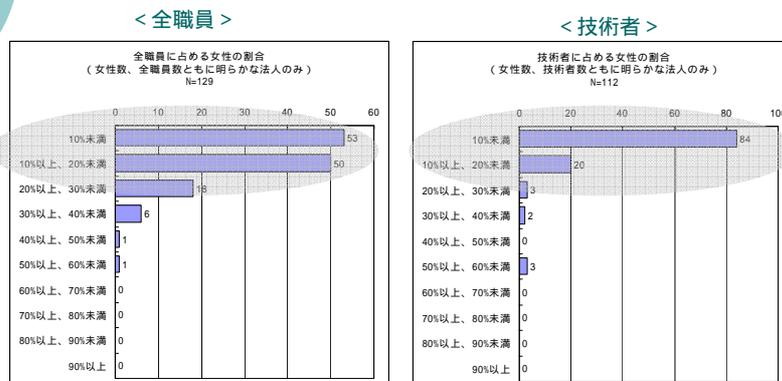
- 法人会員の本社、本部を対象としたため、東京都がもっとも多い
- 大半が民間企業、規模は多様



10

4. 調査結果(速報)

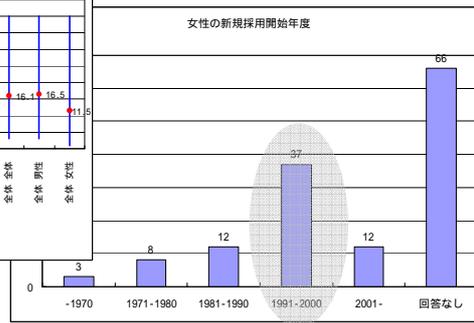
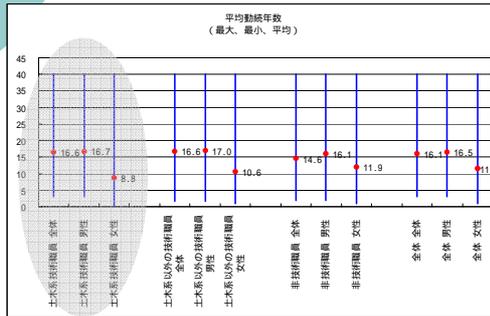
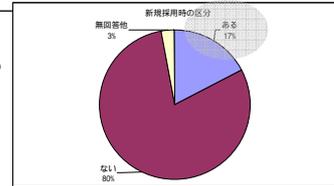
- やはり技術職に女性は少ない！



11

4. 調査結果(速報)

- 1990年代に、女性技術職の新規採用始まる
- 依然としてあるコース別採用

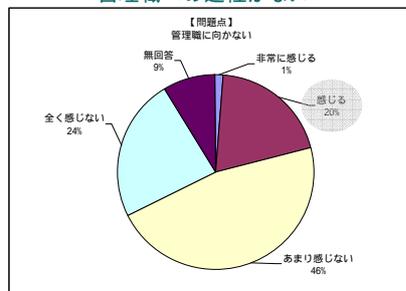


12

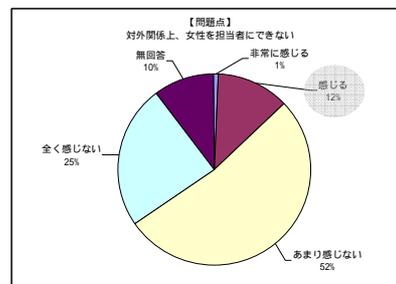
4. 調査結果(速報)

- 女性技術者は「管理職に向かない」わけでも、「対外関係上、担当者にできない」わけでもない...

< 管理職への適性がない >



< 対外関係上、担当者にできない >

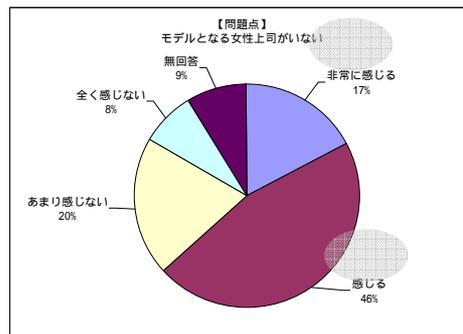


13

4. 調査結果(速報)

- 7割が、「モデルとなる女性上司がいない」と回答
 - 課題は「ロールモデル」か??

<ロールモデルとなる女性がない>



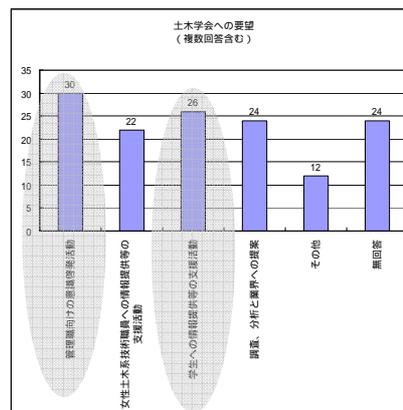
14

4. 調査結果(速報)

- 土木学会に求められているのは...

1. 管理職の啓発
2. 学生への支援
3. 調査、分析と業界への提案
4. 女性技術職員への支援

- 業種別の集計、自由回答の詳細分析を予定



15

5. 今後の取り組み

- 結果の分析、取りまとめ
 - 一次集計は終了
 - 詳細分析中(業種別、規模別等)
 - 報告書は、2月末をめどに作成、3月8日公表(目標)
- 結果の公表
 - ウェブサイトでの広報
 - 学会誌への報告(???)
- 次年度へ向けた提案
 - 継続的な調査(隔年など)の必要性
 - 調査方法の改善 等

16

おわりに

問題点

- リソース(人手、資金)
 - 委員、所属組織からの持ち出しで実施
 - 実際に使える学会のリソースが曖昧
- 学会活動の中での位置づけ
 - 調査実施へのサポートを得るのに苦慮

ご提案

- 「土木学会」の戦略として位置づける
やるならトップダウンで。ボトムアップの活動の限界
「経営戦略」としての「Diversity Management」
- 戦略の目標、数値目標とロードマップを示す
情報処理学会、日本建築学会、学協会連絡会他、事例はある

17